

ポプラの森通信

創刊号

2005.4.1

Aichi University Green Volunteers Society



Aichi University Green Volunteers Society

『ポプラの森通信』創刊号の発行にあたって

愛知大学「緑の協力隊」の活動は本学創立50周年記念事業の一環として始めたものですが、2002年の第10次隊をもって8年にわたる歴史の幕を閉じました。日本沙漠緑化実践協会の特別隊として、中国内モンゴル恩格貝のクブチ沙漠を緑化するためのこの植林ボランティア活動には、この間延べ279名が参加し、植樹されたポプラや松の苗木の数は7902本にもなります。

50周年記念事業としては終了したものの、このような活動の成果をさらに発展的に継承すべく、新たな組織「緑の協力隊・ポプラの森」を2004年から発足させ、植林ボランティア活動を今後も継続させることにし、すでに同年第1次隊が訪中しました。新たに発足した新組織は愛知大学が主催しますが、愛知大学同窓会、(財)同友会並びに父母後援会の諸団体が協賛事業としてご参加をいただくことが出来、学内外にわたる広い組織のもとに運営されることになりました。

会員になっていただいた個人・法人・団体の多くの皆様のご支援とご協力に心から御礼申し上げます。愛知大学「緑の協力隊・ポプラの森」の活動報告『ポプラの森通信』の「創刊号」発刊のご挨拶とさせていただきます。



愛知大学 緑の協力隊
「ポプラの森」

会長 武田信照

愛知大学「緑の協力隊」

ポプラの森

愛知大学(校友課内)「ポプラの森」事務局

〒461-8641 名古屋市東区筒井 2丁目10-31

TEL 052-937-8156 FAX 052-937-8157

e-mail : kouyu@aichi-u.ac.jp



私たちの森を目指して

去る2月4日、車道校舎において、「ポプラの森」緑化活動の今後についての座談会が行われました。今回隊長を務めた愛知大学経済学部・佐藤元彦教授を司会に、現地で指導にあられた日本沙漠緑化実践協会の安田廉さん、愛知大学のOBで今回が9回目の参加となった林徳太郎さん、また参加学生を代表して榊原朝香さん(現代中国学部3年)、鈴木綾子さん(同)の5名による熱のこもった意見交換が行われました。

佐藤 愛知大学はこれまで沙漠緑化実践協会の方々と協力し、10回植林隊を派遣してきました。元々創立50周年の行事



として始めたプロセスもあり、当初は10回で一区切りと予定していましたが、継続してほしいという要望が多く出され、1年のブランクの後2004年度から再開することになりました。

今回は、これから新たな気持ちで出発し沙漠に愛知大学の森という緑がこんもりと生い茂っていく、そういう将来を目指す気持ちで「ポプラの森」の碑を建てることも行いました。学生の参加が32名中14名と、これから事業を継続していくにあたりどうしても若い人たちの力が必要ですから、そういう意味では非常にいい再スタートだったと思います。

今日は、今後愛知大学の特色ある社会貢献事業として、この事業をより発展させていくためにどのように考えていけばいいのかを、短い間ですが話し合う機会にしたと思っています。

学生生活から遠く離れて

佐藤 早速ですが、今回参加されてどんな印象を持ったのか率直な感想をお聞かせください。

鈴木 普段の学生生活とは全く関わりのない沙漠に行き、しかも植林のボランティアをすることで、視野が広がり、自分のどんな小さいことでも何かの役に立つことができると感じました。



榊原 偶然掲示板を見て応募したのですが今まで世代の離れた方や他の学部生と話すことがあまりなかったので、そうした機会があったのは良かったと思います。同じ興味を持った人が集まりひとつのを作り上げていく、その小さな力がたくさん集まり森ができるのだと感じました。

佐藤 お二人とも現代中国学部の学生ですので、カリキュラムで中国へ行く機会がたくさんあると思います。そうした正規の授業とは別に、今回参加されたのは何か理由がありますか。

鈴木 カリキュラムとは違い自発的意志で参加したことに大きな意味があったと思います。自分からやろうと思った活動だから、すごく頑張りました。

佐藤 植林活動以外にも、民家などを訪問し中国語でコミュニケーションをとっていましたが、その点では語学研修あるいはカリキュラムの成果がきちんと試されているなど、非常にうらやましく思いました。

榊原 どうしても自分の意思を伝えたくて、通じなくても一生懸命話しました。掃除のおばさんに「発音きれいだね」と優しく誉めてもらったり、売店のお姉さんには木の実をもらったり、民家ではもてなしてくれたり、すごく温かい気持ちになれました。

実践としての緑化

佐藤 林さんは、日本沙漠緑化実践協会の名誉会長で長年にわたり緑化活動を指導してこられた遠山正瑛先生がお亡くなりになったことを非常に気にしておられ、受け入れ態勢の点で若干不安を感じていたそう

ですが、実際に行かれてみていかがお感じになりましたか。

林 近年、中国では早魃や大洪水、SARSなどがあり現地の事情はあまりよくありませんでした。もちろん遠山先生のこと



もありました。でも、とにかくまた現地へ行って、よく現状をみたくて自分の方針を決めようとそんな宿題を持っていきました。

ところが現地の内蒙古自治区恩格貝に近くなりまして、木々の緑が前にも増してきれいに並んでいる。それから現地には安田さんがおられた。安田さんがおられたらまた我々の希望を託せる。この事業を続けていこうと思いました。なおかつ「ポプラの森」の碑をたてるという晴れがましいこともあり、長年続けてきたことの一つのまとめとしてもいい機会に恵まれました。

やはり若い人がいなければ続かないと思いますので、今回は愛知大学の学生がたくさん来てくださり、大変喜んでおります。愛知大学が先鞭をつけて長期にやっていることを、ぜひ地球上の問題として続けていかなければならないし、私はずっと参加したいと思っています。

佐藤 安田さんは、受け入れる側からみて今回の愛大の再生出発第1号にどんな印象をお持ちですか。

安田 私は特に再生出発ということは意識せずに、来られる協力隊の方には全て平等に満足のいく仕事をやっていける場所を提供する、植林を楽しんでもらえるようにしています。



先程の話を聞いて僕が植林をはじめた頃のことを思い出しました。一所懸命習った言葉でしゃべっても、全然通じなかったんですね。僕もそうでした。毎日NHKで中国会話を勉強しても、現地ではイントネーションが違う。でも、それが実践なんです。

植林も同じです。沙漠では、失敗してもそれを失敗とは言わない。途中経過だから、失敗から学んで新しいやり方を考える。次はどうしなさいとは教えられない。あなたがどうすればいいか考えなさい、僕はそれを最初に教えられました。

愛知大学さんは、元々は中国にあった学校なわけで、実践部隊として1か月に1回は恩格貝に行って、畑仕事をしながら言葉を覚える、そういうことを僕らは期待しています。そのことで「自分たちの森」を自分たちで育てていける。そして、それを後輩に引き継いでいってほしいわけです。

森は木を植えただけでは森にならない。森をつくるには100年かかるんです。

今は、若い人が林さんといったOBの方に助けてもらっている状態です。それよりも若い人が年配の方を引っぱっていく、そろそろそういう森があってもいいと思います。

大事なのは沙漠とは何かを知ることです。沙漠は無の世界だから、特に若い人には自分の人生や心を映す鏡となります。そこから自分の将来をみつめることもできるのではないのでしょうか。

参加の輪をひろげるネットワーク

佐藤 先ほど林さんのほうから若い人が多く参加したという話がありましたが、その点では新しい風が吹いたと言えるのではないかと思います。そして、今その若い人に安田さんのほうからいろいろとアドバイスがありました。林さんは今回若い人と一緒に活動されてどんなことをお感じになりましたか。

林 とにかく若い人達のエネルギーには圧倒されます。我々にも励みになります。若い人が半分以上いる隊のほうがエネルギーもあるし、将来に向けても希望が持てます。若い人たちのさまざまなつながりの中で参加の輪が広がりをみせるのが一番いいことだと思います。

佐藤 横のつながり、ネットワークという話が出ましたが、榊原さんは今回の経験を周囲の人たちに話されましたか。

榊原 はい。関心を持つ友達は多かったです。実際に行ってみると話すほうが本に書いてあることよりも伝わるみたい



です。

林 若い人たちにはこの活動に関心を持つ素地があります。その人たちが講義で話をきく、広報の掲示板を見るといった機会に参加してくれれば、積極的に活動してくれる。それから、少しずつ参加費用が安くなってきてはいますが、私たちと同じ位の金額を出すのは、学生には難しい。もう少し行きやすい条件を作ってあげると参加者が増えると思います。大学だけではなく社会全体が若い人の活動を支えていければいいと思います。

安田 林さんの話をざっくばらんに補足しますと、これからはお金が一番大事な問題になります。と言うのは、皆さんが植える苗木はもちろん、それ以外にも準備作業やタンク車のガソリン代、人件費とか、とても経費がかかります。その経費は皆さんの協力金から出ています。今高校生以下は協力金を無料にしていますが、そうすると子供さんがいっぱい来ます。その分の負担は自然とどこかにしわ寄せがきてしまう。

名古屋市や愛知県、国際交流支援団体などに協力していただくとか、いろんな方法があると思います。そうすればたくさんの人に来ていただけると思います。

若い人を巻き込みながら

佐藤 次に、この事業を若い人—学生を巻き込みながら展開していくにはどうしたらいいか、お話しいただければと思います。

鈴木 この活動に興味のある学生はたくさんいます。でも、活動を知っている人は少数です。私も



3年間大学に通っていたのに、去年の夏初めて掲示板を見て知りました。「愛知大学といたらポプラの森だよね」というイメージがつく位、もっと活発にアピールすることが大事だと思います。たとえば大学のホームページで大々的に紹介し、掲示板もA4の紙ではなくもっと大

きなものを作る。説明会も一日ではなく何回でも開く。

あと、先程もありましたが興味はあるけど参加費が払えないという子も多いです。

佐藤 説明会では事務方からの説明だけでなく、経験者が体験を話す、また、4月のオリエンテーションでも、いろんな学部で話をし、といたように出来ることはいろいろあると思います。

安田 ホームページに学生が経験者の言葉として自分たちの言葉を載せるのは、同じ学生の心に届くと思いますよ。

林 例えば、文化祭の時に「ポプラの森の店」を出して砂を売るとか、企画力のある若い方たちがいろいろアイデアを出し合って盛り上げていくのがいいと思います。

佐藤 先ほど安田さんから実践というお話があって、今回私もいろいろなことを勉強しました。今情報化時代だと言われていますが、よく考えてみるとみんなバーチャルの世界です。だけどやはり人間は生き物だと感じるのは、自分にとって非常にリアリティがある、そういう現場の情報を得た時に人はどんなに輝きを増すことか、学生の皆さんを見て強く感じました。そういう意味では、最近「座学から実践へ」という大きな大学教育の流れもありますが、その中で「ポプラの森」のような機会をどんどん積極的に取り入れていく、そのために広報・宣伝を行うということがやはり必要なのは、自己反省も含めて感じた次第です。

安田 最近、高校なんかではボランティアが点数になっているんです。僕のところにもハンコ押してくださいという子が来ることがあります。愛知大学さんでも、参加してくれる人には、何らかの点数がつくようなことも考えてはいかがでしょうか。

佐藤 私も個人的には大賛成です。しかるべく何か考えたいと思います。ではとりあえずここで打ち切らせていただきます。どうもありがとうございました。



活動記録

	派遣隊	派遣期間	参加人数	植林数	備考
第1期	予備調査	1995年5月7日(日)～5月14日(日)			
	第1次隊	1995年7月28日(金)～8月4日(金)	22名	1,600本	ポプラ
	第2次隊	1995年9月8日(金)～9月15日(金)	22名	1,000本	ポプラ
	第3次隊	1996年7月25日(木)～8月1日(木)	17名	882本	ポプラ
	第4次隊	1996年9月5日(金)～9月12日(金)	15名	679本	ポプラ
	第5次隊	1997年7月25日(金)～8月1日(金)	29名	750本	ポプラ
	第6次隊	1998年8月23日(日)～8月30日(日)	31名	850本	ポプラ
	第7次隊	1999年8月26日(木)～9月2日(木)	21名	134本	ポプラ+松+草方格 270㎡
	第8次隊	2000年8月24日(木)～8月31日(木)	28名	999本	ポプラ
	第9次隊	2001年8月24日(金)～8月31日(金)	46名	488本	ポプラ
	第10次隊	2002年8月11日(日)～8月19日(月)	48名	520本	ポプラ
	合計		279名	7,902本	
第2期	第1次隊	2004年8月11日(水)～8月18日(水)	32名	646本	ポプラ

「ポプラの森」会員数

個人会員	190名
法人・団体	3団体

(2005年3月14日現在)

2005年度 愛知大学 緑の協力隊

「ポプラの森」第2次隊 ボランティア募集のご案内

● 愛知大学特別隊 ●

2005年8月23日(火)～30日(火)

7泊8日(予定)

中部国際空港(セントレア)発着

— 募集説明会(各校舎) —

4月下旬～5月上旬

/ 募 / 集 / 要 / 項 /

- ◆ 名称 愛知大学 緑の協力隊「ポプラの森」
- ◆ 主催 愛知大学
- ◆ 共催 愛知大学 同窓会／(財)愛知大学 同友会／愛知大学 後援会
- ◆ 会員 法人・団体・個人
- ◆ 事務局 愛知大学 校友課
- ◆ 植林場所 中国内蒙古自治区クブチ沙漠恩格貝
- ◆ 目的 本会は、人類共存・共栄の観点に立ち、地球環境の保全を目的に、日本沙漠緑化実践協会(以下「協会」という)が主催する中国沙漠緑化開発を支援する。また、協会の特別隊として中国内蒙古クブチ沙漠に植林ボランティアを派遣すると共に、広く社会に貢献するための活動を展開することを目的とするものです。
- ◆ 事業案内
 - ・協会の特別隊を編成して中国内蒙古自治区クブチ沙漠恩格貝に植林ボランティアを派遣し、沙漠緑化活動を支援する。
 - ・機関誌及び参加者記念文集「沙漠」の発行
 - ・その他、目的達成のための事業
 - ・協会に対する支援活動
- ◆ 申込期間 毎年4月1日～8月31日までの期間
- ◆ 有効期限 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間とする
- ◆ 会員区分 法人・団体・個人
- ◆ 入会金 (初回のみ) 法人：2千円 団体：2千円 個人：1千円
- ◆ 年会費 法人：5千円／年 団体：5千円／年 個人：1千円／年(学生は500円)
- ◆ 会員特典
 - ・会員証(バッジ)の交付
 - ・講演会などを含む、各行事の案内
- ◆ 登録方法 会員登録の届け出及び振込用紙による年会費の振込みによる
- ◆ 年間予定
 - ・会員登録もしくは更新
 - ・当年度の沙漠植林ボランティアの募集
 - ・申し込み参加者による結団式・説明会
 - ・中国内蒙古自治区クブチ沙漠恩格貝での植林活動
 - ・参加者交歓会
 - ・文集「沙漠」の発行
 - ・その他、必要に応じて講演会等の開催
 - ・機関誌「ポプラの森通信」発行(年1回)



会員証(バッジ)

